

友達とは一緒になれなくても、先生という一つの拠り所ができたのである。子どもには落ちつきが出てくるわけである。

このようにして第一段階ができたなら、今度はいよいよ他の子ども達との共同生活への橋渡しを先生がつとめる。元来、子どもの集団というのは、遊びあるいは遊具を媒介としてできるかそれであれば大人がつなぎになつてできるのが自然の姿なのである。先生となじみのできている子どもは、先生という道を通じてほかの子どもと結びつくよりほかに道はないのである。そこで先生は、比較のおとなしい子どもを選んで、先生も一緒になつて、子どもの仲間を作つてやる。そして一緒になつて遊び、一緒になつて行動するようにしてやるのである。この生活をしばらく続けて行けば、今後は先生がぬけても差支えなくなる。そして、今度は放つておいてもほかの子ども達と仲間になり共同生活をどんどん進めて行けるようになるのである。

ただし、ここまでの道行きはまことにゆつくりと遅々としたもので少しづつ少しづつの進歩である。あせると必ず失敗する。気永にやることが何よりも必要なのである。

「キンダーブックまつり」

日頃弊社にお寄せ下さる御厚情に感謝し、喜びと、お礼の心をこめたキンダーブック祭りをこのたび左の通り催します。

日時 五月三日(日) 午後一時より四時まで

会場 共立講堂

催物

一、藤城清治先生指導
ギニョール人形劇 **木馬座公演**

ピロー作「赤ずきんさん」―三幕―

二、NHK歌のおばさん **安西愛子先生 独唱**

三、振付舞踊

則武昭彦先生 指導

翠川淳先生 指導

賀来琢磨先生 指導

四、幻燈スライド (天然色)

シンデレラ姫

五、色彩漫画映画

ワーナーブラザース、メトロ、その他
各社の傑作漫画四巻

★キンダーブックの歌 発表

サトーハチロー先生作詞

芥川也寸志先生作曲

指導 安西愛子先生

株式会社 **フレールベル館**

キンダーブックまつり企画部